



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

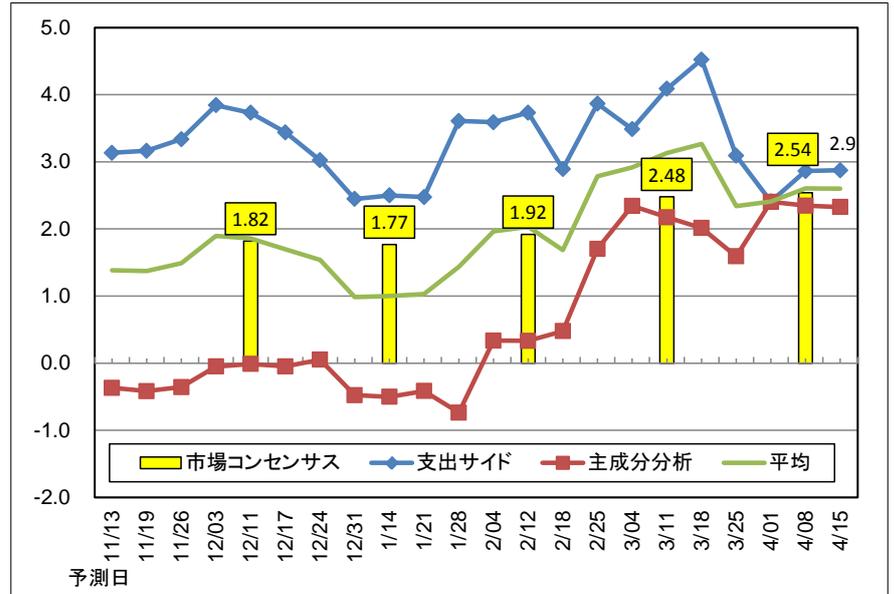
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2013年4月15日)

## ポイント

▶先週(4/8-4/12)は、3月の景気ウォッチャー調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、2月の機械受注、情報サービス業売上高、第3次産業活動指数及び国際収支状況を更新。  
▶これらは、民間企業設備、政府最終消費支出及び純輸出の予測に影響。  
▶データの更新の結果、1-3月期の実質民間企業設備と実質純輸出の予測値は先週から小幅上方修正されたが、実質政府最終消費支出の予測値は小幅下方修正となった。  
▶現在予測できる1-3月期日本経済の姿(前期比年率+2.9%)は内需主導型の成長である。特に公的需要と民間最終消費支出が成長に貢献し、補正予算と株高効果の影響が大きい。  
▶気になるのは民間企業設備の弱さである。1-3月期も小幅のマイナスないしゼロ成長の可能性が高い。企業は輸出拡大→生産拡大→投資拡大という好循環にまだ自信がないようである。その変化を占う試金石は18日発表の3月の貿易統計となる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013年1-3月期(%, 前期比年率換算)



### <気になる民間企業設備の弱さ。いまだ輸出拡大→生産拡大→投資拡大の好循環に企業は自信がない。>

先週(4/8-4/12)は、3月の景気ウォッチャー調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、2月の機械受注、情報サービス業売上高、第3次産業活動指数及び国際収支状況が更新された。これらのデータは、民間企業設備、政府最終消費支出及び純輸出の予測に影響する。

2月の民間機械受注は前月比+7.5%と2ヵ月ぶりのプラス。1-2月期平均は10-12月期平均比7.0%低い水準となっているが、実績は予測を上回った。このため、1-3月期の実質民間企業設備の予測値は先週から小幅上方修正された(前期比-0.1%→同0.0%)。第3次産業活動指数のうち、公務等活動指数は2月に前月比-0.9%となった。2ヵ月ぶりのマイナス。このため、1-3月期の実質政府最終消費支出の予測値は先週から小幅下方修正された(前期比+1.0%→同+0.9%)。また2月の国際収支概況と3月の輸出入物価指数が更新された結果、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正された(5.486兆円→5.535兆円)。これらの結果を反した今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を、内需の増加幅は拡大し、純輸出が横ばいとなるため前期比年率+2.9%と予測する。先週の予測から変化なし。

1-3月期の2/3の月次データから予測できる日本経済の姿は内需主導型の成長である。内需のうち公的需要と民間最終消費支出が成長に貢献している。補正予算と株高効果の影響が大きいといえよう。気になるのは民間企業設備の弱さである。昨年は4期連続のマイナス成長であったが、1-3月期も小幅のマイナスないしゼロ成長の可能性が高い。企業は輸出拡大→生産拡大→投資拡大という好循環にまだ自信がないようである。その変化を占う試金石は18日発表の3月の貿易統計の結果である。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550